

## 「ポイ捨てのないまち」をめざして

### 【概要】

大分市のまちづくりとして、まち全体をきれいにするのが最もふさわしいまちづくりではないかと私は思う。具体的にはポイ捨てをする人が一人もいなくなるようなまちづくりを目指し、それを実現するために二つの案を提案する。一つ目の案は、ポイ捨ての多い地区への重点的なゴミ箱の設置。そして二つ目の案は、市の条例によってポイ捨てを禁止し、違反者には罰則を与えるというものである。二つ目の案は一つ目の案でポイ捨てが減らなかった時のための案である。この二つの案には問題点があり、その問題点と解決方法については下で詳しく述べる。

### 1. はじめに

私の住んでいるまち(大分市)は、大分駅前にはデパートやアーケードがあり、買い物客も多く、県では一番の都市部である。そして少し郊外に行くと、一部の地域にはショッピングモールがあるが、ほとんどの地域には自然が残っている。つまり大分市というのは、良く言えば都市と自然とのバランスがよいまち、悪く言えば中途半端なまちであると言える。このようなまちの「まちづくり」とはどういったことだろう？郊外の自然をなくし市全体で一つの都市にするというのも一つの案だと思う。また、市街地にもっと自然を取り入れ、緑の多いまちづくりをするのもひとつの案だと思う。しかし、私は今あるまちを市民の力で良くしていくことが、本当の意味での「まちづくり」だと思う。それができてからいろいろな都市計画をしていくべきだと私は思う。

### 2. まちづくりの案

今年の8月7日、大分市では「全市いっせいごみ拾い大作戦」が行われた。この「全市いっせいごみ拾い大作戦」とは、一定時間内にごみを拾った人数の世界一を目指すもので、今回、市の人口の約3分の1に当たる14万7410人(速報値)が参加した。

この結果を聞いた時、大分市民の多くは自分の住んでいるまちをきれいにしたいと思っていると、私は思った。そこで、大分市のまちづくりとして「ポイ捨てのないまち」を提案する。シンプルだが、大分市にぴったりな気がする。



写真1 ごみ拾いの様子

## (1) 現状と問題点

まず現在の、ポイ捨てに対する大分市の対応と、それによる効果や問題点について考えてみることにする。現在大分市では、「きれいにしようえ おおいた推進事業」を実施している。この事業は、身近な公共空間（道路・公園・河川など）を近隣の住民や事業者の人達がボランティアで定期的に清掃活動をし、市はその活動に必要な清掃用具の貸し出しやボランティア保険への加入などの支援を行う、というものである。この事業は確かにボランティアをしてくれる住民や事業者がいれば、ごみは少なくなり、結果まちはきれいになると考えられる。しかし、この事業ではまちのごみは減ると思うが、ポイ捨てをする人は減らないと思う。この活動によって、普段何気なくごみを捨てている人も捨てにくくなると思っているのかもしれないが、大分市にポイ捨てをしているのは大分市民だけではない。大分に旅行や仕事などで来た人や、ただ大分を車で通り過ぎるだけの人が平気でポイ捨てをしている。これは大分に限ったことではなく、全国的にこういう傾向があると思われる。

## (2) 「ポイ捨てのないまち」の具体案

私の考える「ポイ捨てのないまち」の目的は、ごみのポイ捨てをする人を減らし、それによってごみも減っていき、最終的には大分市でポイ捨てをする人が一人もいなくなることである。それを実現する案を説明するためにまず、ポイ捨てをする人の気持ちになって考えてみる。なぜ、ポイ捨てをするのか？それは面倒くさいからである。今手元にごみがある。ごみを捨てたい。でもごみを捨てられる場所が近くに無い。ごみを捨てられる場所までわざわざごみを捨てに行くのが面倒くさい。だからその場所に捨てる。ポイ捨てをする人のほとんどが、こんな理由でごみを捨てているのだと思う。ここで、「ポイ捨てのないまち」の実現するための一つ目の案。それは、市内のポイ捨ての多い地区に、重点的にゴミ箱の設置を行うというものである。特にポイ捨ての多い地区には、10mに1つぐらいの割合でゴミ箱を設置する。もちろん車道からもごみを捨てることができるようにする。これにより、ポイ捨てをする人は減ると予想される。目の前にゴミ箱があればポイ捨てをする必要はないのだから。しかしこの案には問題がある。それは、ゴミ箱設置にかかる経費とごみを回収する人の人件費である。ごみを回収するのは市役所の職員でもいいとは思いますが、ここでは別の人で回収するとして考える。この問題の解決策として、市内、県内を問わず、企業や学校などにスポンサーになってもらうのが一番良いのではないかと考えている。ゴミ箱にスポンサーの広告を貼り、スポンサーから広告料をもらい、ゴミ箱設置の経費及び人件費にあてる。または、スポンサー自身がゴミ箱の作製・設置をしてもおもしろいと思う。



写真2 街中のゴミ箱

この一つ目の案によってポイ捨てがなくなってほしいと私は願っている。しかし、もしそれでもポイ捨てをする人がいなくならなかった場合の、二つ目の案を私は考えている。それは、市の条例としてポイ捨ての禁止を定め、ポイ捨てをした人には罰を与えるという案。全国ではすでに、滋賀県をはじめ多くの県や市が行っている。条例にすることにより、ポイ捨てをする人に罪の意識がめばえ、ポイ捨てをする人は激減すると考えられる。罰の具体案としては、ポイ捨て 1 回につき、1 時間のまちの清掃活動か、ゴミ箱のごみの回収の補助か、罰金の 3 つから自分で選択できるようにしたい。選択制にするとなにかと問題があるかもしれないが、ただポイ捨てをして、罰金を払って終わり、というふうにはしたくない。ポイ捨てをした人に清掃活動やごみの回収を通してまちをきれいにするという気持ちをもってもらいたいと私は思っている。

### 3. おわりに

今回提案した「ポイ捨てのないまち」は大分市だけに限定していたが、大分市で実現し成功したら、大分市から大分県そして全国へと広がってほしいと願っている。大分市にはそれを可能にする力を秘めていると思う。まちがきれいになれば人の心もきれいになり、今の社会よりもっと明るい社会になると思う。

参考資料：<http://www.city.oita.oita.jp/>（大分市役所ホームページ）

<http://www.pref.oita.jp/18700/doboku-2004/toshi/toshi16.htm>（大分県土木建築部都市計画課）

<http://www.due.osaka-sandai.ac.jp/~hanashima/gomi/index.html>